

植物研究雜誌

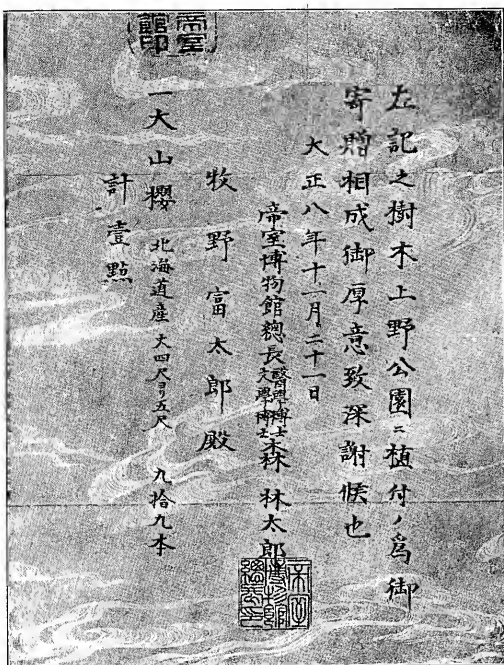
第四卷 第三號

發行所 東京 津村研究所

主筆 牧野富太郎

○公園ニ植エング爲メニおほやまざくら苗木ノ寄附

牧野 富太郎



左記之樹木上野公園ニ植付ノ爲御
寄贈相成御厚意致深謝悵也

大正八年十一月二十一日

帝室博物館總長 齋藤 林太郎

牧野 富太郎 殿

一大山櫻 北海道産大四百五尺 九拾九本

計壹點

公園ニ植エング爲メニおほやまざくら苗木ノ寄附

今ヲ距ル八年前ノ大正八年ノ秋私ハ私費ヲ擲テ北海
道カラおほやまざくらノ苗木二百本ヲ取寄セ内百本
(能ク數ヲ調ベテ見タラ一本不
足シ九十九本シカ無カツタ) ヲ第一ニ東京帝室博物館ニ
獻納シ其他ヲ徳川頼倫侯、東京近郊江北村ノ船津靜
作君並ニ其他ヘ寄贈シタ、私ガ敢テ面倒ヲ厭ハズ主
トシテ此櫻ヲ博物館ニ獻納シタノニハ其間聊カ理由
ガアツタ

當時東京帝室博物館ハ上野公園ヲ管轄シテ居ツタ私
ハ實ハ此おほやまざくらヲ同公園ニ栽エテ其花ヲ衆
人ニ觀セ且ツ同公園ヲ飾リタカツタノデ其レデ之レ
ヲ其目的デ同館ヘ獻納シタノデアツタ其レ故當時ノ
同館カラ上ノ様ナ書類ヲ交付セラレ私ノ厚意ヲ感謝
セラレタ、ソシテ先ヅ取り敢ヘズ此苗木ヲ同館ノ後

公園ニ植エンガ爲メニおほやまざくら苗木ノ寄附

園ニ假植シテ其生長ヲ俟ツコト、ナッタ、ソレハ其苗木ガ此書類ニ示ス通り四五尺許ノ稚苗デアッタ爲メ之レヲ公園ニ栽エ出スニハ尙餘リニ矮小デアッタカラデアッタ、其レヲ一タビ此クシテ置イテ能ク生長セシメソシテ數年後ニ始メテ公園ニ出スコトニ豫定セラレテ居ッタ

トコロガ彼ノ大正十二年ノ大地震ノ爲メニ博物館ノ狀態ガ大ニ變リ且ツ間モナク上野公園ヲ宮内省カラ東京市ヘ交付セラレタ爲メ同公園ハ此ニ全ク博物館トハ縁ナキモノトナツテシマッタノデ曩ニ私カラ獻納シタ上述ノ櫻ハ今ハ空シク博物館ノ後園ニ殆ンド見捨ラレツ、殘ツテ居ルニ過ギナクナッタ、折角上ニ記シタ目的デ遙々取寄セタ苗木ガコンナ運命トナッタノハ殊ノ外残念ナ事ダト思ヒ頃日私ハ市ノ公園課長ノ井下清君ヲ訪フテ此顛末ヲ談ジ此苗木ヲ博物館カラ東京市ヘ譲渡シ貫ヒ之レヲ初念ノ如ク上野公園ヘ栽植スル勞ヲ執ラレンコトヲ惘願シタトコロ同君ハ充分ニ私ノ意ヲ諒トシテ早速ニ快諾セラレ直ニ適當ナ處置ヲ講ジ呉ル、コト、ナッタノデ私ハ大ニ安心シタ公衆ノ爲メヲ念フテ多少ノ私費ヲモ投ジタ折角ノ私ノ宿望モ之レデ達セラル、譯デ誠ニ喜バシイ次第デアル

私ガ特ニ此おほやまざくらヲ上野公園ニ植エタイト思ヒ立ッタノニハ亦其譯ガアル、我日本ノ中部カラ北部ニ亙リテノ天然生ノ山櫻ハ主トシテ此おほやまざくらデアル事ヲ始メテ私ガ今カラ約ソ二十年ノ前ニ唱道シ乃デ *Prunus pseudo-Cerasus* Lindl. var. *borealis* Makino. ノ學名ヲ命ゼシガ間モナク此櫻ガ愈ヨ1868年ニ露國デ出版セルフリードリヒ、シュニット (Friedrich Schmidt) 氏著ノ樺太植物志ニ出テ居ル *Prunus Pseudo-Cerasus* Lindl. var. *sachalinensis* Fr. Schmidt. デアル事ヲ考定セシ時分ニ恰ド博物館内ニ此櫻ノ大樹ガ二本アツテ年々見事ニ花ヲ發イテ居ッタ、元來該ノ二樹ハ今カラ四十六年前ノ明治十四年東京ニ第二内國勸業博覽會ノアッタ時北海道カラ出陳シタ種々ノ樹木生本ノ中ニ交ツテ居ツテ會後此等ノ樹ヲ一纏メトナシ上野公園内ノ博物館後園ノ一區域ニ聚メ植エタモノダ、其レガ年ヲ經ルニ從ヒ段々ト生長シテ成木シ中ニハ頗ル能ク成

公園ニ植エング爲メニおほやまざくら苗木ノ寄附



(縦一尺二寸四分横九寸一分ノ原圖版ヲ縮寫)

おほやまざくら『大日本植物志』第一卷、第四集、第十五圖版)

長シテ大樹トナ
ツタモノモアル
其中ニやちだも
はるにれ、しな
のき、はくうん
ぼく、ほうのき
くろもじ、おほ
ばつのしはみ
等が見ラレタガ
此等ノ樹木ニ伍
シテ此おほやま
ざくらガ其樹間
デ毎年能ク花ガ
咲イタノデア
始メハ誰レモ氣
ガ附カナカッタ
ガ當時博物館ニ
兼務シテ居ッタ
私ハ其レニ眼ガ

公園ニ植エンガ爲メニおほやまぐら苗木ノ寄附

着イテ之レヲ研究シ且ツ各地カラノ天然生品ノ材料ヲモ參考シ之レガ説文ヲ綴リ又其圖ハ右ノ二樹カラ材料ヲ採テ製シ此ニ完全ナ圖説ヲ調ヘ得タカラ之レヲ今カラ十六年前ノ明治四十四年十二月出版ノ『大日本植物志』即チ *Icones Japonicae* (東京帝國大學發行) 第一卷第四集テ世ニ公ニシタ、即チ其圖説ハ次ノ如キモノデアツテ圖ハ前頁ニ掲ゲタモノ (圖中1枝ハ甲樹ノモノ、2枝ハ乙樹ノモノ、同種中ニモ此様ニ大小ガアル) 其説文ハ左ノ通りデアル

おほやまぐら *Nom. Jap. Oyamagura.*

Prunus serrulata, Lindl. var. *sachalinensis*, Makino in Bot. Mag. Tokyo, XXIII. (1909), p. 75, in nota.

Prunus pseudo-Cerasus, var. *sachalinensis*, Fr. Schmidt, Reiss. im Amurl. u. Ins. Sachal. in Mém. Acad. Imp. Sc. Pétersb. 7e Sér. XII. no. 2 (1868), p. 124.

Prunus pseudo-Cerasus, var. *β. borealis*, Makino, loc. cit. XXII. (1908), p. 101.

Prunus serrulata, *β. borealis*, Makino, loc. cit. XXIII. (1909), p. 75, et XXIV. (1910), p. 146.

Prunus pseudo-Cerasus, Sargent, Gard. a. For. X. (1889), fig. 58.

Prunus pseudo-Cerasus, O. Stapf in Curtis's Bot. Mag. tab. 8012 (1905).

うばら科 (薔薇科) ROSACEAE. *Prunus* 族 PRUNEA.

高聳セル喬木ニシテ高さ凡十二メートル内外ニ成長シ斜メニ上昇セル枝極有ス○幹ハ暗紫栗殻色ヲ呈シ横互セル粗大ノ老皮目ヲ有ス○大枝及ビ小枝ハ共ニ暗紫栗殻色ヲ呈シ圓柱形ニシテ皮目ヲ散點ス○葉ハ花後ニ展舒スト雖ドモ花ト共ニ嫩葉ヲ發出シ帶緑紅紫色ヲ呈ス、葉柄アリ、成葉ハ闊大ニシテ縁色ヲ呈シ或ハ廣橢圓形或ハ廣橢圓狀橢圓形或ハ橢圓形或ハ廣卵形或ハ倒卵狀ヲ帶ビタル廣橢圓形ヲ成ス、葉頭ハ急ニ狹窄シテ尾狀鋭尖ト成リ末端尖レリ、葉底ハ圓形或ハ略ハ心臓形ヲ成シ、葉縁ハ單鋸齒ニ交ウルニ略ハ重鋸齒ヲ以テシ、鋸齒ハ凸尖ヲ有セル三角形ヲ成シ幼嫩ナル時ハ末端ニ一腺アリ、葉ノ兩面ハ共ニ無毛ニシテ長サ凡六乃至十四センチメートル、幅凡四乃至八センチメートルアリ、中脈ハ葉ノ下面ニ隆起シ、支脈ハ中脈ノ兩側各六乃至十一條許アリ斜上シテ走り相共ニ平行シ差ヤ上方ニ弓曲ス、葉柄ハ粗大ニシテ毛ナク前面ニ溝路ヲ印シ上部ニ二乃至三類ノ腺體ヲ具フ凡一三分一乃至三センチメートルノ長アリ、腺體ハ細小ノ圓盤狀ヲ成シ深紅紫色ヲ呈ス、托葉ハ線形或ハ狹線形或ハ線形ニシテ單一或ハ略ハ條裂シ鋭尖頭ヲ有シ邊緣略ハ疎ニ鋸齒セル腺毛ヲ具フ淡綠色ニシテ早落ス○花芽ハ前年生ノ小枝上ニ側生シテ柄ナシ、芽鱗ハ花後ニ散落シ略ハ多數ニシテ覆瓦狀ニ相層ナリ其内面ハ相四ミ上部ノ者ハ或ハ反曲シ或ハ然ラズ下部即チ外列ノ者ハ他ニリ小ニシテ剛膜質ノ平卵形ヲ成シ黃褐栗殻色ヲ呈ス、中部ノ者ハ之ヨリ大ニシテ卵狀圓形ヲ成シ圓頭ヲ有シ上邊ハ黃褐帶紫色ヲ呈シ下邊ハ帶白色ノ草質膜狀ヲ呈ス上部即チ内列ノ者ハ最も長クシテ橢圓形ヲ成シ圓頭ハ圓形ト成リ或ハ時ニ三裂シ(然レドモ葉芽ニ在テハ更ニ之ヨリ大ニシテ往々三裂シ時トシテハ小形ノ葉ヲ有セリ) 邊緣ハ密ニ有腺ノ細齒ヲ刻ミ淡綠色或ハ紅紫色ヲ呈シ内面疎ニ長毛アリ草質ヲ帶ビタル膜質ニシテ長サ凡十三「ミリメートル」許ニ達セリ○花ハ一乃至三個ヲ以テ一ノ繖房狀繖形ヲ成シ葉ト同時ニ出デ凡三乃至四半「センチメートル」ノ花徑アリ、花梗ハ極メテ短縮シ(或ハ罕ニ長ク) 小梗ト共ニ毛ナク淡綠色ニシテ基部ハ芽鱗ヲ以テ周匝ス、小梗ハ斜上シ粗大ニシテ眞直、圓柱形ニシテ淡綠色ヲ呈スト雖ドモ上部ハ紅紫色ヲ帶ビ二乃至三分一ノ長アリ、苞ハ或ハ倒卵形或ハ長橢圓狀倒卵形或ハ倒披針形ヲ成シ頭末圓形ヲ呈シ邊緣ニハ毛狀ノ細齒ヲ刻ミ草質ニシテ淡綠色ヲ呈シ且少シク紅紫色ヲ帶ブ外面ハ無毛ニシテ内面ニハ疎ニ長毛アリ縱脈相通ジ長サ凡六乃至七「ミリメ

トル」アリ○夢ハ無毛ニシテ淡紅紫色ヲ呈シ花後ニ墜ツ、萼筒ハ管狀ニシテ漸次上方ニ放大シ下端ハ狹窄シ小梗ニ連ナル、長サ凡ハ「ミリメートル」アリ、萼裂片ハ其長サ萼筒ト相若シク或ハ差ヤ之ヨリ短シ算スベシ○花萼ハ往々闊大ニシテ平開シ廣楕圓形ニシテ鋭狀鋭尖頭ヲ有シ内面少シク陷凹シ全邊或ハ少シク細頸筒ト相若シク長サ凡ハ「ミリメートル」許ヲ算スベシ○花萼ハ往々闊大ニシテ平開シ廣楕圓形ニシテ淡紅或ハ微凹狀四頭ヲ有シ不明ニ短花爪ヲ具フ長サ凡十四乃至二十「ミリメートル」、幅凡九乃至二十「ミリメートル」アリテ散落シ易ク而シテ淡紅或ハ呈セシ○雄蕊ハ多數ニシテ直立或ハ傾上シ花瓣ニ比スレバ之ヨリ短ク而シテ其外列ノ最長者ト雖モ瓣長ノ凡五分ノ三ニ過ギズ、花絲ハ無毛、絲狀ニシテ白色ヲ呈シ後花瓣將ニ散落スル時トスル、前其等淡紅紫色ト成ル、蒴ハ碎小ニシテ圓ク花心黃ナリ○子房ハ單鰾ニシテ花心ニ潛在シ長楕圓狀楕圓形ニシテ綠色ヲ呈シ平滑ニシテ毛ナシ、花柱ハ其高サ殆んど雄蕊ト相等シク或ハ微ニ之ニ超シ瘦長ナル圓柱形ニシテ毛ナク頂末淡綠色ヲ呈ス、柱頭ハ平頭形ニシテ綠色條ナリ○果核ハ一穗ニ一穎若クハ二穎成熱シ多クハ卵狀ヲ帶ビ紅色ヲ呈シ味甘シシテ雖モ微ニ苦シ、核ハ白色「ミリメートル」許ノ横徑アリ始メ綠色ナリト雖モ熟シテ黒紫色ト成ル、果成熱シ多クハ卵狀ヲ帶ビ紅色ヲ呈シ味甘シシテ雖モ微ニ苦シ、核ハ白色ヲ呈シ廣楕圓狀楕圓形ヲ成シテ少シク平扁シ頂末略ホ凸尖狀ヲ成セル銳頭ヲ呈シ其基部ハ鈍形ヲ成ス表面平滑ニシテ縱線ノ兩側縱ニ淺廣ナル溝路ヲ成シ又縱線ノ短ク兩側ニシテ在テハ之ニ近ク短キ肋ヲ成ス八乃至十「ミリメートル」ノ長竝ニ六乃至六半「ミリメートル」ノ幅アリ、小梗ハ粗大ニシテ寧ろ短ク眞直ニシテ圓柱形ヲ成シ極メ漸次頂末ノ方ニ放大シ無毛ニシテ淡綠色ヲ呈シ且上部往々紅染ス長サ凡十三乃至十七「ミリメートル」アリ○東京ニ在テ栽培セルラシナ樹ハ四月花放ラキ六月果實成熱ス本品ハ北海道本州ノ北部竝ニ中部諸州ノ山地ニ自生シテ其北限ノ地ヲ樺太ニ至ル世ハ通常之ヲ普通ノ「*Prunus serrulata*」ト相分ツナクシテ彼此一齊

ニシキノ如ク遠視スル雖ドモ然モ是レ自ラ別ニシテ相混ゼザル可トす即チ我邦ノやまざくらニハ其間自ラ二品ノ存スルアルヲ以テ從テ著者ハ
宜シク之ヲ南北ノ兩品ニ大別セズキ者タルコトヲ主張セント欲ス而シテ其北品ハ此ニ圖說セルおほやまざくら(曾テ著者ノ命名)ニシテ南品ハ華
通ノやまざくらはナリ此兩品ノ區域ナル、一方ハ本邦中部并ニ北部ニ於テ其產地交モ相知カリ一方ハ北品即チおほやまざくらニ在テ前述
コト樺太ヲ限ルト南品即チ普通ノやまざくらニ在テハ薩南海上ノ屋久島ヲ限ルト、此ノ如クおほやまざくらハ主シテ北部地ニ多シト雖ドモ邊
ニシテ信州南部ノ地ニ及ビ尙之レト接壤セル諸州ニ在テハ蓋シテ見ルコト得ベキヲ想フ而シテ其枝ノ特ニ上向セル、其皮色ノ深キ、其葉ノ
闊大ナル、其花ノ往々大形ナル、其花色ノ濃キ、其小梗ノ短粗ナル、并ニ通常其花芽鱗片ノ短クシテ反曲スルコトノ少キ等以テ直チニ普通ノやまざくら
と相區ツセン)始メテ本品ヲ記述發表セシハ Fr. Schmidt 氏ニシテ樺太所產ノ品ニ基キテ、*sachalinensis* ヲ設ケ時ニ西曆一千八百六十八年、我明治元年ナリ同氏ノ記述甚だ簡ニ失スト雖ドモ然レドモ能ク其實狀ヲ發陳シ降テ *Sargentii* = *Otto Stapf*
六十八年、我明治元年ナリ同氏ノ記述甚だ簡ニ失スト雖ドモ然レドモ能ク其實狀ヲ發陳シ降テ *Sargentii* = *Otto Stapf* ノ圖說ハ一八八十六年、
シノ人家ニ栽植セル所謂さくら(白井光太郎氏命名)ノ一群中ニハ此おほやまざくらヨリ出デシ認ムベキ品種鮮ナカラズ今此等ノ品種ヲ取
テ之ヲ普通ノやまざくらヨリ降りシ者ト想定スルニ比スレバ却テ正鵠ヲ得タルガ如ク感ゼンバアラザルナリ

其後明治帝ノ御轎車ヲ納メシ含殿ガ博物館ノ庭園ニ建ツ時此おほやまざくらノ二樹ヲ動カシ移植後不幸ニシテ兩樹共枯死シテシマツタガ幸ニ其樹カラ採ツテ寫生シタ花枝ノ圖ハ長ナヘニ上記ノ如ク『大日本植物志』ニ殘ルコトニナツタ、虎ハ死シテ皮ヲ留メルト謂フガ此櫻ハ死シテ圖ヲ殘シタ

公園ニ植エシガ爲メニおほやまざくら苗木ノ寄附

此おほやまざくらノ和名モ私が第一ニ此櫻ニ付ケタモノデ其レマデハ我邦デハ此櫻ノ事實ガ能ク分ラズ頗ル混沌タル有様デアッタガ此時ニ至ツテ始メテ其正體ガ能ク明ニナッタ、えどやまざくらノ名ハ其後ニ誰カハ付ケタ和名デアアル此様ニ二ツモ其名ガ出来テ居ルカラ其外ノ名ハ無クモガナデアアル、園藝品トシテ此おほやまざくらカラ出テ居ルモノガ幾ツカアル事モ私が前記ノ通り始メテ『大日本植物志』中ニ述ベテ置イタガ其後三好學博士並ニ米國ノ E. H. WILSON 氏ノ書イタモノニハ其品種ガ舉ゲラレテアル

此おほやまざくらハ花色ガ普通ノやまざくらノ花ヨリハズツト濃ク其紅紫色ヲ呈シテ満開スルノ狀ハ頗ル美麗デアアル若シモ之レガ幾十本モ並ンデ咲イタナラバ嘸ゾ派手ヤカデ一入春色ヲ添ヘル事デアラウ私ハ其眼ヲ瞠平ル見事ナ有様ヲ世人ニ眺メサセテ遣リタイト思ッタノガ抑モ此櫻ヲ公園内ニ植エテ見タイト發願シタ始メデアアル、世間ニハ會トカ櫻好キノ者ナドガアツテモ大ニ之レヲ栽植スベク實行スル事ニハ餘リ努力シナイノデ私ハ頗ル心外ニ思ヒ其處デ自ラ苗木ヲ取寄セテ之レヲ躬行スル事ニシタノデアッタ若シモ私が金持デアッタナラ早速ニ一萬本モ二萬本モ其苗木ヲ取寄セ大々的ニ植エ駢ベルノデアアルケレド心ハやたけニはやれドモ貧乏デハドウモナラズ只僅ニ二百本ノ苗木デ我が心ヲ慰メネバナナイ情ケナイ事デアッタ、又私ハ我日本一般ノ櫻ニ對シテモ若シ我が思ヒノ儘ニナルナラバ皆ノ様ナけナ事ハセンネ、大ニ我邦内ノ各方面カラ在リト有ユル櫻ノ品種ヲ集メ何百萬株モ植エ込ンデ其レデ「朝日に匂ふ櫻の日本」ノ表かんばんヲ拵ヘルケレドモ何ノ不幸カ思ヒノ儘ニナラヌ仕合セ是ナ事ナラ此ンナ世ニ貧乏ニ生レテ來ルンデヤナカッタガト今更ラ愚痴ツテ見テモ追ツツカン話サ、或ル西洋人ハ言ツタゲナ「櫻の日本」へ來テ見タラナインノ事ダ「櫻の國」ダト自慢スル日本ノ櫻ハ頗ル貧弱デ觀ルニ足ラナカッタト、其通り御尤モ御道理さまデ御座リマス、不徹底ナ會ヤ、清濁併セ吞ム底ノ雅量ヲ持合ハサヌ人々ニ大キナ事ヲ望ンデ見タ所デ其レハだめト謂フモノデアアルソナ陰氣ナ人々ナドニ取扱ハル、櫻ハ多分其不過ニ泣イテ居ルコトデアラウ



土佐高岡郡佐川町奥ノ土居、青源寺下ノそめぬよしの（中央ノ一樹）ト
やまざくら満開競發ノ景

序ニ記シテ置クガ私ノ郷國四國ノ土佐ヘ始メテそめぬよしのノ苗木ヲ入レタノモ私デアツテ其レガ確カ今カラ二十五年前ノ明治三十五年ノ事デアツタ、私ハ高知市ノ東、吸江（ギウカウ）ヲ隔テ、聳ユル五臺山（ゴダイサン）ノ東ノ山面ニ若シモ此櫻ガ咲イタナラバ高知ノ風光ヲ一層美化スルモノト考ヘソコデ苗木百本ヲ東京デ購求シテ當時ノ五臺山竹林寺（チクリンジ）ノ住職船岡芳信師（羅切即チ我ガ（の）こヲ裁リ去ツタ奇僧）ニ贈ツタ其内二本ホドヲ高知ノ海南學校（モ裁エテ貰フ様ニ申シ送ツテ置タガ果シテ實行シテ呉レタカ否カ其後ノ事ガ私ニハ能ク分ラズニ居ル、大正三年ニ私ハ久シブリ（二十九年目）デ土佐（歸省シタノ）デウシク別レテ居タ我ガ子ニ會ヒニ行クヤウナ心持チデ早速ニ五臺山ニ登リ我ガ曩ニ送ツタ其櫻ガ今如何ニ成リ行キ居ルカヲ見ニ行ツタトコロ同寺ノ庫裏附近ニ植エアルモノハ可ナリノ大木トナツテ居ツテ嬉シカッタガ私ノ最モ希望シテ居ツタ高知市街（向イタ山面ノモノハ樹皆著ルシクイジケテ山路脇ノ雜樹ノ叢中ニ雜リ一向ニ能ク生長セズ、在ルニハアレド氣息奄奄ノ有様デアツタノニハロドク失望落膽シテシマッタ是ニ由テ觀レバ此山面ハ其土質此櫻ニハ適セヌカ又或ハ手入レスレバ能ク生長スルカ其邊ノ事ハ今速カニハ斷ジ難イガ若シモ此山面ニ澤山此櫻ガ綠樹ノ間ニ斷續シテ滿開セバ雲乎花乎春時高知ヨリノ眺望ハ洵ニ佳絶デアラネバナラヌト想像スル、誰レカ我が志ヲ襲イデ大ニ此處ニ植ウル人ハ之レ無キ乎高知ヲ愛スル人土ノ一考ヲ煩ハシタイモノデアル

又右ト同時ニ私ノ郷里ノ佐川町（サカハマチ）ヘ送ツタモノハ幸ニ能ク生長シ同地奥ノ土居ノ青源寺下并ニ切妻（キリウサギ）デハ年々他樹ニ僣ツテ盛ニ開花シ居ルトノ郷信ニ接シ當時多少ノ苦心ノ幸ニ今日ニ酬イラレタルヲ喜バシク思ツテ居ル、上ニ掲グルハ其景觀デ中央ニ樹高ク花々衆ニ滿ツルモノガ私ノ送ツタそめぬよしのデ其他ハ皆花ト共ニ穠色ノ新葉ヲ出ヌ在來ノやまざくらデアル